除1例であった．全例根治度B手術がなされ，5生率は34.5％であった．9例にNo.16転移を認め，転移個数は平均6個であった．9例の生存期間は平均22ヶ月，MSTは449日で，3例が無再発生存中である．術前化学療法後にNo.16郭清を施行した1例でNo.16転移を認めたものの長期無再発生存を認めた．しかし，D2，D3郭清を施行したf-Stage ⅢA，ⅢB，Ⅳ症例の生存率を比較したところ，No.16郭清効果は認められなかった．

## 26　当科における小腸腫瘍6例の検討

嶋村　和彦・蛭川　浩史・渡邊　隆興
多田　哲也
立川綜合病院外科

【目的・対象】当科における小腸腫瘍症例の症状や特徴につき臨床病理学的に検討した．対象は2001年1月から2008年10月までに当科で手術を施行した小腸腫瘍6例．

【結果】局在は空腸2例，回腸4例．診断は平滑筋腫1例，GIST 1例，過誤腫1例，カルチノイド1例，癌2例．症状は腹痛3例，下血2例で他1例は小腸腫瘍による症状はなかった．術前に小腸腫瘍と診断し得た症例は3例でいずれもCTにて診断されたが，残り3例もretorospectiveな読影で腫瘍を疑うことができた．壁外性発育の平滑筋腫，GISTはサイズが大きく，癌，カルチノイドは深達度，脈管侵襲が高度であった．

【結論】小腸腫瘍は比較的進行した状態で発見されることが多く，早期診断は困難であった．CTの詳細な読影により診断率が上昇すると考えられた．

## 27　イマチニブ耐性GISTに対するスニチニブ治療の臨床成績

神田　達夫・松木　　淳・下山　雅朗*
間島　寧興**・石川　　卓・矢島　和人
小杉　伸一・畠山　勝義
新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野
秋田組合総合病院外科*
立川メディカルセンターPET画像診断センター**

イマチニブ耐性GIST患者に対する新規分子標的薬スニチニブ（スーテント®）の臨床成績を報告する．患者は男性8名，女性3名，平均年齢は58.7歳．11名中6名においてグレート3の副作用が認められた．休薬の最も多い原因は血小板減少と好中球減少で，それぞれ3名であった．2コースまで終了した6名における抗腫瘍効果はSDが5名，PRが1名であり，PDは認めなかった．110日と135日で増悪が確定した2名が，それぞれ治療後26週，47週で死亡している．スニチニブ治療はイマチニブ耐性GIST患者に対して高い確率で腫瘍進行を抑える．一方，血液毒性の発現は高度であり，慎重な管理が必要である．